# センター通信


〒 123-0873　東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728　FAX (03)5939-7880
URL　www.wfc.or.jp

## 長谷場新宿寮いよいよ竣工

平成 17 年に財団法人青少年福祉センターと社会福祉法人清友会を統合し、社会福祉法人青少年福祉センターと改称した際に、財団法人の元にあった新宿寮を社会福祉法人傘下にしたことは、多くの方がご存知のことと思います。その頃より、狭い階段の５階建てで利用者が火事になった時への不安に加え、窓枠が落ちる等の建物の老朽化が顕著となり、建て替えを考え始めました。職員の意見を取り入れて設計を進めるために、毎月のように設計者と話し合いも持ち、50 年後を見据えての建物というコンセプトの基に進めてきました。補助金申請をするにあたり、細かい所を詰め、「いざ、許可」という時期に東日本大震災が起こり、電力を新規工事用には供給が困難との話で、申請を取り下げざるを得なくなりました。その結果、工事の着工も２年遅れ、漸く昨年末に着工となりました。その間に消費税が 5% から 8%となり、東京オリンピックが 2020 年に開催と決まり、資材の値上がり等で工事費用も当初より増加し、資金調達にも多くの皆様のお力を拝借致しました。最初の構想から始まって 10 年近くが経ちましたが、２０１５年1月16日に待ちに待った竣工式を迎えられるようになったことを、皆様にご報告させて頂きます。

創立 50 周年を迎えたのは５年前ですが、「長谷場新宿寮」の立ち上げは、今後の 50 年を見据えての建物です。法人の基幹的建物と位置づけ、１階には地域交流スペースを設け、社会貢献も法人として行っていこうと考えております。今でも、お餅つきやバザーなどで地域の方達と交流をしておりますが、今後は新しい試みもしていきたいと思っております。

自立援助ホーム自体は２階と３階を吹き抜けにし、一体感が増すようにしました。そして、明るい大きな窓は気持ちも明るくさせていくことでしょう。

自立援助ホームを日本で初めて立ち上げた当法人の創設者長谷場夏雄の開拓者精神を継承し、インターネットの世界が直ぐそこまで来ていることも鑑みて、いつでも必要に応じて、各部屋に繋げられるようにと準備をし、必要に応じて心理面談も可能な部屋も用意してあります。「次世代を担う青少年を育む」という理念に恥じない建物となったと思っています。そして勿論、それ以上にソフト面でも役員・職員一同が今後も一丸となって取り組んで参ります。

公的資金を頂き、多くの皆様からのご支援により、来年より「新宿寮」は、「長谷場新宿寮」として足立区扇に第１歩を踏み出しますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

理事長　山下　眞一郎

# 近況報告

## 児童養護施設 暁星学園のようす

（定員男女 36 名）

8 月 16 日から 3 泊 4 日で、島根県のかなぎライディングパークにて、ホースセラピーを実施いたしました。ホースセラピーとは、馬を撫でたり実際に乗ったりして、馬とのコミュニケーションをとることにより、心と体両面への直接的セラピー効果を期待するものです。ドイツやスイスでは健康保険が適用されるほど、一般的な療法です。期待される効果は多くあります。例えば、①大きな馬を操ることで得られる自己肯定感の向上、②馬との意思疎通を通じてのコミュニケーション力の向上、③馬の体温が伝わることでの緊張緩和、④乗馬中のゆらぎから得られる癒し、⑤身体の平衡感覚の向上、⑥足腰のトレーニング、などです。

実際、馬に触れてみると、最初は恐る恐る馬に触れていた児童も、時間が経つにつれて、馬と友達になったようで、平気で撫でられるようになっていました。その後、引き馬ができるようになり、次の日には、見事に馬に乗ることができていました。

このような取り組みを行ったからでしょうか。みなみホームの今年度の第三者評価は、みごとな結果でした。

児童からの聞き取り調査では、満足度がほぼ 100％だったのです。今後も、児童にとってより良い環境を提供できるよう、さまざまな取組を行っていきたいと考えています。

## 児童養護施設 あけの星学園のようす

（定員男女 20 名）

暑い夏も終わり夏バテにも負けず、あけの星学園は秋空のもと、10 月に下落合の運動公園で行われた八町連合大運動会に参加しました。本園の男児女児、こでまりホームの女児そして職員、新宿寮の子ども達が町内の方々と力を合わせ、徒競走や玉入れ、パン食い競争などの競技に参加しました。10 月から新しく入所した子どもも参加し、交流を深める場ともなりました。芝生の運動場で思いっきり走る児童の姿はとても楽しそうでした。それぞれの児童が各競技で活躍していましたが、あけの星学園の R 君がメイン種目のリレー競争でごぼう抜きをして、大活躍する場面もありました。また一つ思い出となる楽しい運動会となったようです。

子どもたちがこうした町内や地域全体でのイベントに参加することにより、普段ではなかなか話す機会のない方たちとの交流の場となり、地域の連携を感じられたと思います。

また、新宿寮の移転が 27 年 1 月に控えているため、あけの星学園が新宿寮の職員・子どもたちと一緒に運動会に参加するのは今年が最後となります。寂しくなりますが、新宿地区で唯一の事業所として、地域の顔となる施設を目指し、職員一丸となって頑張っていこうと思います。

## 自立援助ホーム 新宿寮のようす
（定員男子 15 名）

新年度が始まってから半年以上が経ちました。この間に職場や地域で沢山の方々に出会い、支えられながら寮生達も逞しく成長してきました。春に入寮した寮生の中には、転職に向け動き出そうとしている子や、就労の安定を目指してこれまで以上に仕事を頑張ろうと努力している子もおり、寮生の進路は様々です。

そんな寮生達の日頃の疲れを解消するため夏には花火大会、ホタル観賞、海水浴、神津島旅行など様々な行事を行いました。おもいきり遊んで楽しんで、初めての経験も沢山出来ました。

秋には新宿区社会福祉協議会からミュージカルのご招待を頂きました。寮生達も普段あまり触れる機会のないミュージカルを観ることができ貴重な経験となりました。また、町会運動会にも出場し、元気いっぱいの新宿寮生は大活躍。満足気な笑顔が印象的でした。地域の方々にもお声をかけて頂き、寮生達もどこか安心した様子でした。

年末年始はＯＢ会、寮生忘年会、クリスマス会、正月の家と沢山の行事を行う予定です。ＯＢの皆さんの元気な姿を見られることを楽しみにしています。クリスマス会には日頃から大変お世話になっている方々もご招待し、毎年盛大なパーティーを行っています。寮生もクリスマスプレゼントをとても楽しみにしています。

年明けには新宿寮の足立区移転も控えています。不安な事も沢山ありますが一緒に新しい長谷場新宿寮を作っていきます。

## 自立援助ホーム 清周寮のようす
（定員女子 15 名）

年に1度の竹ノ塚地区祭を９月下旬に行いました。昨年度より、長谷場専務理事の竹ノ塚故郷構想に向けて、清周寮と保木間ホームの卒寮・園生を合同で招待しています。今年は、昨年よりも１０名程多い５２名の卒寮生とその家族が来寮し、近況報告を行ったり、卒寮生同士の交流もあり、とても盛り上がりました。

年々子供連れの卒寮生が増え、彼女達の成長を感じると共に、同伴している子供の成長も感じています。印象的だったのが卒寮生の子供が別の卒寮生の子供に会うのを楽しみに参加し、子供同士で楽しく遊んでいたことです。その光景を見ながら、ここが“実家”以上の存在になりつつあるように感じました。

ご支援くださる方々も年々増え、今年は新規の会社も含め、15 社に協賛品を頂き例年以上に内容のあるお土産を持って帰ってもらうことが出来ました。卒寮生からも数多くの感謝の言葉を受け、職員、卒寮生共にご支援者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、今年度清周寮に入職した職員や他事業所の職員も、関りのなかった卒寮生に積極的に声をかけ、話をしている姿を見て、一体感を覚えました。この様な行事に於いても“次世代の担い手を育む”という法人の理念が、職員に継承されていると感じ取れました。来年も卒寮生の成長を感じられるのを職員一同楽しみにしています。

## 自立援助ホームおうぎ寮のようす
（定員男女６名）

男女定員６名のおうぎ寮では、現在18歳から19歳までの男子３名、女子３名が生活しています。それぞれが、自立した生活を目指して、仕事、学校と忙しい毎日を過ごしています。６名という規模を活かして、利用者が、より家庭的な雰囲気で生活することができるように、努めています。自立援助ホームの職員としては、食事を作り、職場、学校へと送り出すのも大事な仕事です。また、職場での人間関係や、恋愛、進路、人生についてなど、年齢相応の悩み事の相談相手になることも、重要な役割の一つです。職員もその都度迷いながら、より最善の方法を一緒に考えています。

高校や専門学校に通いつつ、働いている利用者がいます。また、高校へ行かず就労した利用者の中には、高等学校卒業程度認定試験を受け、大学や専門学校への進学を希望することもあり、一緒にオープンキャンパスに行くこともあります。求職中の利用者には、仕事を一緒に探すなど、一人ひとりに合わせた支援を行っています。

しかし、職員だけでできることには限りがあります。学習ボランティア、食事ボランティア、清掃ボランティアと様々なボランティアの方など、多くの方に助けていただいています。また、クリスマス会、成人式などの機会には、頂いた寄付品をプレゼントに使わせて頂いております。又、その他の場合に於いても、食品や生活用品を寄付で頂いた品々を有効に活用し、少しでも利用者の支援に役立てられるようにと、有効に活用させていただいております。

## 共同生活援助 ノエルのようす
（定員女子５名）

今夏より、新しい職員が入職しました。子育てが一段落をし、福祉の仕事をと思って今年初めに暁星学園にて、仕事を始めた吉岡職員です。利用者にとっては、お母さんのような感じで、直ぐに溶け込んでいます。以前から勤めている間所職員と共に、力を合わせて日々の生活支援は勿論、事務処理等もこなしています。

それぞれ個性的な3人の利用者は、言動も個性的です。わざとイラつかせてどこまで受け入れてくれるかを見極めようとするタイプ。わからないことをわからないとは言わず、さもわかっているような振りの返事をして、実際にしてみると全く分かっていなくて失敗をするタイプ。仕事場に行けば、やさしい上司がいて楽しんでするのに、何かと理由をつけて仕事を休もうとするタイプ等様々です。又、ノエルに戻ってきてからも、殆ど自室で過ごすタイプ、居間でテレビを楽しむタイプ。職員と話をするのが大好きなタイプ。３人３様です。金銭管理についても、同様です。

私たちは、個性的な利用者たちが一生に一度は一人住まいの経験をできるようにと、それぞれのニーズに合わせて、支援を行っています。新体制になってから５年目となり、３人が独り暮らしをしています。時々困ったことが起きると連絡をしてきたり、食事を一緒にしたいと来たりしています。

独り立ちした利用者も吉岡職員をお母さんのように思っているようです。そして、間所職員と共に、２人のお母さんに、時には厳しく、時には優しく見守られて、独り立ちする日を目指して努めているこの頃です。

## ◆法人内研修◆

宿泊研修の様子

今年度は、階層別研修に加えて、全職員が同じ内容の研修を受け、法人職員として同じ思いで利用者に接することができるような研修も行い法人内で一体感を持てるように企画しました。

**児玉理事：「社会人としての７つの心得」**

足立地区・新宿地区にて各１回　社会人としての基本理念の研修

**尾崎眞三先生（ルーテル学院大学）：**

1.「権利擁護」　事業所長・足立地区・新宿地区にて各２回
　権利擁護の基礎知識及びその実践について、年度当初に研修を受け、年度末に１回目に受けた内容をどの様に活かしていったかなどを振り返る。

2.「施設の運営管理」　各施設事業所長、基幹職員対象
　事業所によって違う職員体制や運営方法について個別の研修

**宿泊研修：「法人理念の継承」**

３年前より始まった法人理念についての研修を発展的にして、職員１人１人の思いを大切にしつつ、全体で１つの目標づくりをし、それを各職員が１年かけてどの様に実践していくかを P(Plan) D(Do) C(Check) A(Act) で考える研修。上級・指導職級が、昨年より企画・立案・実行をし、全職員を前半・後半に分けて行った。

## ◆警視庁より表彰を受けました◆

感謝状

社会福祉法人 青山年福祉センター殿

貴会には永年にわたり交通安全対策を積極的に推進するとともに適正な事業管理に努め交通の安全と円滑確保に多大の貢献をされました よって本年春の全国交通安全運動にあたり深く感謝の意を表します

平成三十年　五　月三十七日

警視庁交通部長　寺部　徹

西新宿交通安全協会長　安田　敏明

当法人では、地域の方々と交通安全運動に参加し交通ルールの厳守と運転マナーの向上を呼びかけるとともに、セーフティドライバー・コンテンストに参加し、職員の安全運転意識の向上に取り組んできました。この度、その成果が認められ警視庁より感謝状をいただきました。

## ◆長谷場専務理事 雑誌「ことぶき」に◆

平成 26 年 11 月号の月刊ことぶきに『日本の元気　子どもたちに寄り添う暮らし』と題して当法人専務理事長谷場夏雄が取り上げられました。

インタビューの中では、「家を失った子どもは、環境を整え、良くすれば、いくらでも良くなる。本来、人間には優しさが必要なのです。」「子ども達には、無償の愛を持って接することを心掛けてきました。親や家庭に代わる存在として、しっかりと役割を果たそうとしてきたのです。しかも、親でないからこそ、できることもあると思ってきました。」「子ども達は、本当は話したいのですね。実際に聴いてみると、仮に無茶苦茶な論理であっても「なるほどな」という所が多い。聴くことは忍耐でも何でもない。おこがましいのですが、私は子ども達を心から尊敬している。」といった長谷場のこの仕事や子どもたちに対する熱い思いが語られています。これは、現在の当法人の理念にも繋がり、後述の研修などを通し、職員にも受け継がれています。

## ◆長谷場専務理事の上半期の動向◆

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 新任職員研修 | 7月 | 聖心バザー | 9月 | 寿出版取材 |
| | 事業所長研修 | | 松原教会講演 | 10月 | 新宿寮ヒストリービデオ取材 |

## おうぎバザー

おうぎバザーには、「地域交流（相互理解）」・「アフターケア（退所児童対応）資金調達」という、大きく２つの目的がありましたが、特に今回は明確な目標がありました。墓標には「かけがえのないあなたへ」とした、とても素敵なお墓のためです。

今年度の事業計画として、≪法人退所者のためのお墓の確保≫がありましたが、墓地の様々な規制のため、予算を30万円程上回ってしまい、どうしたものかと困っておりました。そこで、おうぎバザーの売上をその資金に充てることとしたのです。

11月８日（土）、ボランティア・利用者・職員、70人以上が協力し、焼きそば・豚汁・ドーナッツ等の食品、射的・輪投げ等のゲーム、野菜・書籍・雑貨・衣料品の販売をしました。その結果、小雨降る寒い日にも拘わらずおかげさまで、目標額まであと少しのところでした。

何より、お買い物やゲームを楽しんでくださった地域のみなさま、大きな声で販売を呼びかけた寮生、主に裏方をお手伝い下さったボランティアさん達、たくさんの笑顔に出会うことができました。職員一同、心からお礼申し上げるとともに、あと少しの資金調達のため、引き続き日々の節約とご寄附の呼びかけをしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

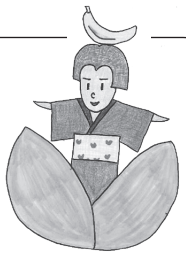
## 赤い羽根共同募金運動

今年度も、10月１日から全国一斉に赤い羽根共同募金運動が始まりました。当法人でも、毎年街頭募金活動に参加しており、本年は10月１日、10月３日の２日間、JR日暮里駅の東口にて活動を行いました。当日は、気温も低く行き交う方々も足早でしたが、ご年配の方から学生の方まで多くの方が足を止めてくださり、暖かいご寄付をしてくださいました。

赤い羽根共同募金は、民間の運動として戦後直後の1947年に、市民が主体の取り組みとしてスタートし、当初は戦後復興の一助として、戦争の打撃をうけた福祉施設を中心に資金支援する活動としての機能を果たしてきました。

その後、社会福祉事業法という法律のもとに民間の社会福祉の推進に向けて、社会福祉事業の推進のために活用されています。当法人においても、本誌巻頭にてお伝えしております長谷場新宿寮の厨房機器にて配分を受ける予定となっております。

この度の募金活動に際して、募金をして下さった多くの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

**編集後記**

先日のおうぎバザーでのこと。ご寄附品の桃の缶詰を活用し、ピーチとバナナのスムージーを販売させていただくことになりました。ＰＲのために楽しく案を出し合って考えたオリジナルキャラクターをご紹介します。こちら、ちょんまげバナナの桃次郎です！！ 当日はこのステッカーを貼った紙カップが大活躍！！バザーご参加の皆さん、お気づきいただけましたでしょうか。